



2月のコラム ～三国志にはまっています～

緊急事態宣言も延長され、大変なところに恐縮ですが、今三国志にはまっています。自宅で過ごす時間が増え、アマゾンプライムビデオが大活躍なのですが、面白い連続ドラマは、麻薬のごとく・・・

三国志は、95話の大作でまだ途中なのですが、次々訪れるピンチにハラハラ、ドキドキ。次の展開が気になって仕方がありません。

ストーリーや演技を楽しみつつ思うことはたくさんありますが、再認識したことが十人十色、人はみな違うということ。

何か起こったとき、何かを聞いた時、どう感じるか、何を受け取るか、どう考えるか皆違います。また、その受け取った結果をどう伝えるかも人それぞれ。率直にそのまま表現することもあれば、オブラートに包んで伝えることもあります。本心を明かさず逆を伝えることもあれば、策をめぐらせ相手を自分の意のままに動かすために言葉を飾ったり偽ったりすることもあります。私なんぞは、自分の感覚の範囲内でしか人の心を捉えることができないので、人の真意が読める人は本当にすごい！と感動しきりです。

そして、どんな人でも長所、短所があり、長所が活かせることがあれば、裏目に出ることもあり、逆に短所が功を奏することもあります。さらに言えば、長所・短所という言葉自体も何が基準で良い悪いになっているのでしょうか。善悪や正義は、立場や場面によって変わりますものね。

ドラマではありますが、戦争や国盗り物語から学べることは、企業経営にもよく取り上げられます。人を動かす方法も何を使うか、どう使うか。権力、理論、情、相手の価値観・・・場面や相手によっても変わるでしょう。方法を間違えれば、今言うことを聞いたとしても、日が経てば、離れていったり、モチベーションが下がってしまったり。

そして、一番の敵は、自分であり、一番怖いのは自分のおごり。滅びる原因は、外からでなく、内輪もめや自らが自分たちの組織を正せないこと。

そんなことばかり考えて観ているわけではないのですが、フムフムと思うことがたくさんあります。

作者の意図にはまって、ダラダラと見てしまう自分を正当化したい今月のコラムでした。

2021年2月 水田かほる